

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2017年3月号(第27号)



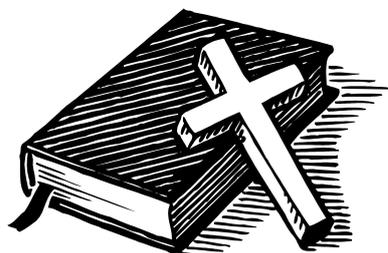
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

柔和な者は幸いです。

その人たちは地を受け継ぐから。

【マタイの福音書 5章 5節】

世の中を見ていると、政治や会社の世界では「強いリーダーシップ」が求められているように思えるのですが、いかがでしょうか。確かに、強く引張って行ってくれるような人を見ると、頼りがいがある人だと感じることもあります。そして、そういう人がいわゆる「勝ち組」に入るようにも思えます。自分にはそのような能力がないと悲観することもあるかもしれません。

今年1月から本通信では山上の説教と呼ばれるイエス様の教えを見えています。その教えの最初は「心の貧しい者は幸いです」とあり、その次には「悲しむ者は幸いです」とありました。どちらも私たちの常識からするとしっくりくる教えではありませんで

した。そして、今月取り上げるのが「柔和な者は幸いです」という教えです。これも前述した「強いリーダーシップ」的な考えからすると相反する教えのように感じます。

「柔和」と言いますと、字のごとく「やわらかく、ふんわりした様子」を思い浮かべます。そこには「強さ」は感じられません。しかし、イエス・キリストは「その人たちは地を受け継ぐから」と言います。この「地を受け継ぐ」というのは、この地上で国の支配者になるという意味ではありません。神が支配しておられる国(やがて来る「神の国」)において王としてキリストと共に支配するようになるという意味があります。また、この地上の生活においては、次のように地

を受け継ぎます。それは「真に柔和な人は、いつでも満ち足りている人、すでに満足している人」であり、「何も持っていないが、何でも持っている人」として生きることが出来ます。

一般的には強くてリーダーシップがある人が全ての物を手に入れるかのように考えやすいですが、仮にこの地上で多くの物を手に入れたとしても、この地上の命を終える時、そのような物は全て置いていくことになります。その点において、私たちの生き方の「視点」が問われます。この地上だけに目を置き、どうやって少しでも多くの物を手に入れようかと躍起になるのか、それともこの地上を柔和な者として生き、見た目は何も手に入れていないように見えても、実は全ての物を手に入れているかのごとく満足して生き、神の国で王としてキリストと共に生きることを見ていくのか。ところで、この「柔和な者」というのは、威張り散らす人ではなく、神に信頼して、神の公平

～集会案内～

○日曜日：聖日礼拝 10:30～12:00
教会学校 9:00～10:00

○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
19:30～21:00

○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（子育てなどをしている方のための集い。）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

な取り扱いに委ねる人のことを言います。イエス様ご自身がその生き方を実践されました。言い換えるならば「へりくだった人」「謙遜な人」とも言えるでしょう。但し、日本人的な「私なんて・・・」という自己卑下が聖書の語る謙遜ではありません。神と共に歩み、神に信頼し、自分の無力さを認めて神の憐れみの内を生きている人が聖書の語る謙遜な人です。自己主張から解放され、他人を押しつけるのではなく、人に譲ることのできる生き方を神は喜び、祝福してください。

◆コラム

3月11日で東日本大震災から6年になります。ボランティア活動に行くようになるとは思っていなかった私が神学校時代に石巻に行くチームのリーダーになり、それから少なくとも一年に一度は石巻を訪問するようになりました。高速道路も免許取得以来ほとんど乗っていなかったのに、ボランティアに行くために勇気をもって運転するようになりました。現地に行って特別な活動をするわけでもなく、教会を通して仮設住宅や復興住宅を訪問させて頂き、ただただお話を耳を傾けます。私たちがよそ者だからこそ、色々話せることもあるようです。同じ被災者の中にも経験の仕方には違いがあり、そこには難しさもあるようです。遠く離れているからこそ出来ることがあることを覚えつつ、今年ももう一度訪問できるよう祈っています。